

アトピー性皮膚炎患者から分離された新菌種 *Branchiibius cervicis* sp. nov. の解析
○富田 純子¹, 阪本 大², 杉田 隆², 藤原 永年³, 中 崇^{3,4}, 浜田 盛之⁵,
森田 雄二¹, 河村 好章¹(¹愛知学院大薬・微生物, ²明治薬大・微生物, ³大阪市大
院・医・細菌学, ⁴MBR, ⁵製品評価技術基盤機構NBRC)

【目的】アトピー性皮膚炎患者 3 名の頸部からグラム陽性、カタラーゼ陽性球菌が分離された。これらの菌株はこれまでに報告されているどの既存菌種とも一致せず新菌種である可能性が考えられたため解析を行った。

【方法】分離された 3 株の 16S rRNA 遺伝子の塩基配列を決定し、得られた配列を他の菌種の配列と共に NJ 法により系統解析を行った。系統的に近縁の菌種については DNA-DNA ハイブリダイゼーション試験をマイクロプレート法にて実施し、DNA 類似度を算出した。さらに脂肪酸組成分析、キノン分子種の同定、ゲノム DNA 組成分析、生化学性状試験を行った。

【結果および考察】16S rRNA 遺伝子による系統樹を作成すると皮膚炎患者から分離された 3 株は *Dermacoccaceae* 科に属していた。最も近縁であったのは *Branchiibius hedensis* で 3 株と共に独立したクラスターを形成しており、16S rRNA 遺伝子の相同性は 99.6%であった。*Dermacoccaceae* 科に属する他属菌種との相同性は 94.8%以下を示した。*B. hedensis* と DNA-DNA ハイブリダイゼーション試験を行うと、DNA 類似度は 43.9%以下であった。3 株の生化学性状は β -galactosidase 活性や糖の分解性において特徴的な性状を有しており、さらに主要脂肪酸とキノン分子種の比較からも *B. hedensis* と鑑別することが可能であった。以上の結果から、今回検討したヒト皮膚由来 3 株は新菌種として位置付けることが妥当であると考えられたため *Branchiibius cervicis* sp. nov. を提案する。